

# iLO ファームウェアアップデート補足

本書は、Starter Pack により iLO ファームウェアをアップデートするときの注意事項などについて説明しています。アップデート操作を誤るとサーバーが起動しなくなる等の障害が起きることがありますので、本説明文を最後までよく読み、誤操作のないようアップデートしてください。また、データ書き換え中に予期せぬアクシデント（停電、雷、遮断、ノイズ等）によりサーバーが誤動作したり電源が切断されたりしますと、最悪の場合、機器が損傷し正常動作しなくなります。このような場合お客様のご負担で修理を必要とすることがありますので十分ご注意ください。

- ファームウェアアップデート中にブラウザのリロードボタンまたは<F5>キーを押さないでください。誤ってそれらの操作をしてアップデートが完了しない状態になった場合は、iLO のリセットを行ってください。
- サーバーに TPM または TM がインストールされている場合、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアをアップデートする前に、TPM または TM に関する情報を格納するソフトウェアを一時停止またはバックアップしてください。例えば、ドライブ暗号化ソフトウェアを使用している場合は、ファームウェアのアップデートを開始する前に停止してください。ソフトウェアの停止をせずにシステム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを行った場合、データへアクセスできなくなる可能性があります。TPM または TM を使用するソフトウェアを停止していない状態では、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを開始しないようにしてください。
- iLO ライセンスキーの紛失や HW 障害などによる設定値消失に備え、iLO ファームウェアアップデート実施後にバックアップとリストア機能を使用して iLO 設定のバックアップを行うことを推奨します。
- 本ファームウェアのアップデートとともに以下の各ファームウェアとソフトウェアをアップデートしてください。
  - a) システム ROM(BIOS): Starter Pack の Standard Program Package を適用
  - b) Agentless Management Service: Starter Pack の Standard Program Package を適用
  - c) ESMPRO/ServerAgentService: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
  - d) 装置情報収集ユーティリティ: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
  - e) RESTful インターフェイスツール: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
  - f) ESMPRO/ServerManager: 別紙「ESMPRO アップデート補足」を参照
  - g) エクスプレス通報サービス(MG)の受信情報設定ファイル: 別紙「ESMPRO アップデート補足」を参照
- IPMI は、その仕様上、パスワードハッシュを取得される脆弱性(CVE-2013-4786)が含まれています。対処方法は、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。

- 本 iLO ファームウェアでサポートする HTML5 コンソールは、日本語キーボードの修飾キー(<Shift>キー、<Ctrl>キー、<Alt>キー等)の入力ができません。入力できないキーは、OS のスクリーンキーボード機能、もしくは HTML5 コンソールの仮想キーでも使用可能です。
- OS インストール前に本 iLO ファームウェアへのアップデートを行う場合は、OS インストレーションガイドを参照して BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)の[Date and Time]-[Time Format]の設定を行ってから本 iLO ファームウェアへのアップデートを実施してください。

本 iLO ファームウェアへのアップデート後、BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)の[Date and Time]-[Time Format]の設定に合わせて、[iLO 設定]-[時刻]-[概要]-[タイムゾーン]にタイムゾーンを設定してください。

- ① RBSU の[Time Format]の設定が[Coordinated Universal Time (UTC)]の場合：

→RBSU の[Time Zone]と同じ値に設定してください(UTC は GMT に読み替えてください)。

例) [Time Zone]が"UTC+09:00, Osaka, Sapporo, Tokyo, Seoul, Yakutsk"の場合、"Osaka, Sapporo, Tokyo, Seoul, Yakutsk (GMT +09:00)"を選択します。

- ② RBSU の[Time Format]の設定が [Local Time]の場合：

→[Local Time]に対応するタイムゾーンを設定してください。

例) ロケールが日本の場合、"Osaka, Sapporo, Tokyo, Seoul, Yakutsk (GMT +09:00)"を選択します。

- 本 iLO ファームウェアへ適用後、画面上部-[概要]-[セキュリティ]および[セキュリティ]-[概要]-[全体セキュリティステータス]に◆リスクが表示される場合があります。RBSU や iLO の設定の状態によっては iLO セキュリティのステータスに◆リスクが表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処をお願いします。推奨値等の詳細は、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。
- 本 iLO ファームウェアへ適用後、[ファームウェア]-[ファームウェア設定]-[ダウングレードポリシー]の設定で「ダウングレードを永遠に不許可」へ設定しないでください。本設定へ変更後は、iLO に対して永続的な変更が行われるため、iLO インターフェイスや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。なお、本設定は BMC 構成ユーティリティの[工場出荷時のデフォルトにセット]オプションにより iLO を出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、設定はリセットされず「ダウングレードを永遠に不許可」を維持します。
- サーバー起動から OS の起動完了までの間(POST 実行中も含みます)は、iLO の再起動を行わないでください。また、システムユーティリティの操作途中も、iLO の再起動を行わないでください。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。例えば、システムユーティリティの設定変更途中で iLO の再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失する場合があります。

また、POST 実行中に iLO の再起動を行うと、[情報]-[概要]ページにおける UUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

# 改版履歴

## 2026/04/07 iLO7 ファームウェア 1.21.00

- iLO リセット後に SSL コンテキストヘゲートウェイ証明書をロードする仕組みを改善。
- iLO Redfish API において、配信先への Redfish イベント通知の配送を停止する件を改善。
- CVE-61984 および CVE-26466 に関連する OpenSSH の脆弱性問題を改善。
- VROC HOST OOB ドライバーが未ロード時に Intel VROC(VMD 有効)に構成された直接接続 NVMe ドライブ情報が、iLO Web インターフェイスの[ファームウェア]-[ファームウェアインベントリ]ページに表示されない件を改善。
- iLO SNMP アラートにおいて、エンタープライズ OID が含まれない場合がある件を改善。
- iLO Web インターフェイスの仮想メディア設定において、無効な IPv4 アドレスが入力された場合に誤ったエラーメッセージを表示する件を改善。
- iLO RESTful API サービスにおいて、watchdog タイマーがトリガーされた後に iLO が頻繁にリセットされる件を改善。
- 仮想シリアルポートが無効化された場合に、Serial Over LAN セッションが応答しなくなる件を改善。
- 統合リモートコンソール(IRC)と iLO Web インターフェイスとが同じセッションキーを共有している場合に、IRC にビデオ出力が表示されなくなる件を改善。
- LDAP サーバー名が複数 IP アドレスに名前解決された場合に、Active Directory 認証が失敗する件を改善。
- ドメイン名が業界標準の命名規則に従っていない件を改善。
- 仮想シリアルポート(VSP)がデフォルトで有効となるように改善。
- ホスト OS 上に AMS がインストールされていなくても、iLO SNMP を介して直接接続 NVMe ドライブの監視が有効となるように改善。
- iLO SNMP におけるストレージコントローラのプロパティが、iLO RESTful API の属性値と一致するように改善。
- Thales CipherTrust Manager のドメイン名をサポート。
- ACME(自動証明書管理環境)プロトコルを使用した TLS 証明書の自動管理をサポート。
- iLO の最小パスワード長のデフォルト値を 8 に変更。
- NVIDIA RTX PRO 6000 Blackwell Server Edition をサポート。
- iLO 専用ネットワークポートの MTU サイズの設定変更をサポート。
- POST 中のサーバーのブートオーダー変更をサポート(反映は、次回システム再起動時)。
- NVIDIA RTX4500 をサポート。
- PLDM のファイル転送仕様(DSP0242)をサポート。
- Intel E830 NIC をサポート。

- SPDM 認証用の Micron、Samsung のルート CA 証明書をサポート。
- サーバーのアセットタグを最大 63 文字までサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、AMS ステータスが未インストール状態時に AMS のインストールと、仮想 NIC 有効化を求めるメッセージ表示機能をサポート。
- HTML IRC において、高遅延ネットワーク時のキー重複入力回避のため、重複キーの防止をサポート。
- 新規の RDE ストレージアラート用の IML イベントをサポート。
- iLO RESTful API を使用した単一 NVMe ドライブのイレース機能をサポート。
- HTML IRC において、ホストへのテキストのコピー & ペーストを可能にするため、クリップボード機能をサポート。
- HTML IRC において、ブートオプション操作をサポート。
- 環境メトリックスと電源メトリックにおいて、電力と入力電力メトリックをサポート。
- PCIe® Card Electromechanical(CEM)の 6.0 および 7.0 対応のため USB 管理とタイミング同期をサポート。
- TPM-1 測定関連の Redfish URI をサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、Thales CipherTrust Manager 向けのドメイン名をサポート。
- iLO ユーザーのパスワードの最小文字数を 4 文字に変更。
- DMTF 標準に準拠するために、Power スキーマのプロパティを PowerSubsystem スキーマにポーティング。
- 仮想メディアにおいて、適切なエラーメッセージにより無効 URL の扱いを強化。
- iLO Web インターフェイスにおいて、直接接続型自己暗号化ドライブ(SED)の設定機能をサポート。
- ストレージコントローラにおいて UBM11 モデルをサポート。
- iLO Redfish API において、電力センサプロパティ(PowerCapacityWatts)をワット単位の読み出し値に置き換え。
- トラブルシューティング改善のため二重署名検証失敗に関するエラーレポートを強化。
- iLO Redfish API において、バンドル更新が無応答状態になった際に進行中のバンドル更新を終了し、Smart Update Tools(SUT)リカバリのため iLO のリセットを行う機能を追加。
- iLO Redfish API において、GPU 名、バス ID、温度、パワーキャッピング、GUID、エネルギーカウンターを含む GPU メトリックスをレポートする機能を追加。
- iLO Web インターフェイスおよび iLO Redfish API において、Intel プロセッサに関する集約された使用状況テレメトリのレポート機能を追加。
- AMD プラットフォーム向けの CPU 使用率および電力を含むテレメトリレポート機能を追加。
- iLO Web インターフェイスにおいて、仮想メディアのステータス表示機能強化として、接続状態に関する詳細情報追加。
- POST 中のワンタイムブートオプション設定をサポート(反映は次回のシステム再起動時)。
- iLO Redfish API において、グローバル電力使用量カウンター(Wh)を導入したサーバー全体の消費電力をレポートする機能を追加。

- iLO SNMP においてサポートするストレージコントローラーモデルを追加。
- Direct Liquid Cooling(DLC)デバイスを検出し、速度、最大速度、冗長性を IPMI センサーでレポートする機能を追加。
- NVIDIA RTX PRO 6000 Blackwell Server Edition および H200 NVL に対する GPU パワーキャッピング機能を追加。
- ストレージカードおよびネットワークカード用の Redfish Device Enablement(RDE)メトリクススキーマを追加。

## 2025/08/13 iLO7 ファームウェア 1.17.00

- iLO Web インターフェイスと iLO RESTful API の SSL 証明書を TLS 証明書へ変更。
- 全てのセキュリティモードにおいて、TLS 接続用の ECDSA P384 鍵をサポート。CSR 生成のためのデフォルト RSA 鍵のサイズを 4096 ビットに拡張。
- iLO Web インターフェイスにおいて、ボリュームの作成と削除をサポート。
- iLO のアイドル接続タイムアウトにおいて、5 分間のアイドルタイムアウトを追加サポート。
- ホストアプリケーションログの AHS ログへの書き込みをサポート。

## 2025/06/16 iLO7 ファームウェア 1.16.00

- 仮想シリアルポート設定(“ログを表示”)のデフォルト設定値を有効から無効に変更。
- NVMe-MI のファームウェアアップデートをサポート。
- 480GB OS ブート専用 SSD ボード (RAID 1, HS)のサポート。
- 液体冷却漏れ検出時に電源オンおよびファームウェアアップデートを制限する制御をサポート。
- 専用ネットワークポートにおいて、LLDP(リンク層ディスカバリープロトコル)をサポート。
- UBM11 をサポート。

## 2025/05/28 iLO7 ファームウェア 1.14.00

- ホスト電源イベント事象発生時に、仮想 NIC を再構成するように改善。
- 液冷デバイスにおける漏れ検出機能をサポート。
- iLO Web インターフェイス、iLO RESTful API において、ハードウェアラベルと合致するように OCP スロットのラベル名を変更。
- iLO バージョン表記を xx.yy.zz の形式に変更。
- iLO とホスト OS 間のインバンド通信用インターフェイスをチャンネルインターフェイス(CHIF)から仮想 NIC へ変更。

- iLO 仮想 NIC のため EU Lot9 準拠の NCM モードドライバーをサポート。
- 仮想 NIC、AHS ダウンロード改善のためデュアルロール USB ホストコントローラーのソフトウェアサポート (USB デバイスとホストの自動接続をサポート)。
- カスタマーエクスペリエンス、使いやすさの向上を目的として iLO Web インターフェイスを刷新。
- SSH CLI において、UID、OneTimeBoot、NMI、VSP、VSP LOG、iLO リセット、iLO 時間、iLO バージョン、画面クリア、Windows カーネルデバッグ有効化コマンド(windbg\_enable)、およびヘルプ コマンドをサポート。
- デフォルトのセキュリティモードとしてセキュア標準モード(従来機の高セキュリティに相当)をサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、温度センサー用の 2D グラフ(ヒートマップ)をサポート。
- iLO でローカル時間を設定するリアルタイムクロック(RTC)をサポート。
- パドルライザーのサポート。
- iLO RESTful API と iLO Web インターフェイスにおいて、「スムーズな冷却」機能をサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、ログインセキュリティバナー使用承諾の確認ボタンを追加。
- IPMI over LAN において、Cipher 17 または 3 アルゴリズム指定での認証のみをサポート。
- 「DHCPv4 の時刻設定を使用」有効時に、iLO が DHCPv4 サーバーから取得したタイムゾーンをローカル時間に反映させる機能をサポート。
- LDAP ディレクトリグループと SSO 設定のための追加の権限チェックを追加(セキュリティ強化)。
- iLO LDAP セッションの保持と、LDAP サーバーのタイムアウト設定が 45 秒以上の場合にネットワークタイムアウトを回避する機能をサポート。
- iLO Web インターフェイスおよび iLO RESTful API から View Log の有効化/無効化設定をサポート。
- 複数の画面やブラウザにまたがる iLO Web インターフェイスのレンダリング機能を強化。
- iLO 時刻設定におけるユーザーエクスペリエンスを改善。